



感染症週報



小笠原での流行状況

第39週（9月22日 から 9月28日まで）

父島 特別な感染症の報告はありませんでした。

母島 特別な感染症の報告はありませんでした。

※ 5例以上発生時に実数報告としています

東京都全体での流行状況

第38週（9月15日～9月21日）

【警報・注意報】

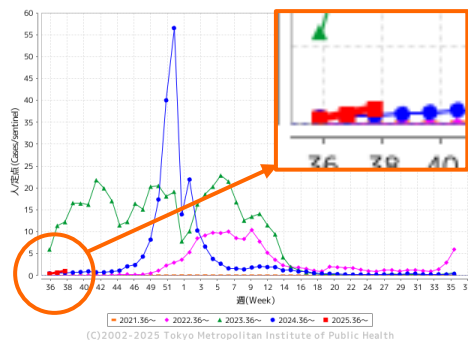
なし

【ピックアップ】

★前週より増加しています

・インフルエンザ

（定点患者報告数 1.00）



★まだまだ注意が必要です

・新型コロナウイルス感染症

（定点患者報告数 4.06）

・百日咳

（累計報告数 6,004例）

・RSウイルス感染症

（定点患者報告数 1.27）

感染症メモ

蚊は世界に約3,500種、日本では100種以上が確認されています。血を吸うのはメスだけで、産卵に必要なタンパク質を得るためです。小笠原諸島のような亜熱帯の島しょ部では、年間を通じて蚊の活動が見られ、特にヒトスジシマカが多く生息しています。この種はデング熱などの感染症を媒介する可能性があり、都市部だけでなく離島でも注意が必要です。蚊は二酸化炭素や体温、汗の成分に反応して人を探し、黒い服に寄ってきやすい性質があります。小笠原では、雨水が溜まりやすい草むらや低木、落ち葉の堆積地、バケツやプランターなどの人工容器が繁殖源となりやすく、たまり水をなくす、清掃や水の交換、草刈りなどの環境整備が重要です。蚊は花の蜜も吸っており、血液は繁殖のための栄養源にすぎません。蚊の生態を知ることは、感染症予防にもつながります。



秋の蚊と感染症リスク

秋でも蚊に注意！

気温25～30℃は蚊の活動に最適。近年の温暖化により、蚊の活動時期が夏から秋へと長期化しています。特に2025年は猛暑の影響で、10月以降も蚊の活動が活発な可能性があります。



主な蚊媒介感染症

デング熱：発熱・発疹・頭痛など。ヒトスジシマカが媒介。海外渡航者からの輸入例に注意

チクングニア熱：ネッタイシマカやヒトスジシマカが媒介。関節痛が特徴。欧州や中国で流行中

西ナイル熱：渡り鳥と蚊の連携で国内流行の可能性も

日本脳炎：コガタアカイエカが媒介。ワクチンで予防可能

小笠原の地理的特性

小笠原諸島は亜熱帯気候で、蚊の活動期間が本土よりも長く、ヒトスジシマカが定着しています。渡航者の感染症持ち込みや、船舶・貨物に付着した蚊の侵入にも注意が必要です。

予防のポイント

- ★ 水たまりを作らない（植木鉢・雨水ますなど）
- ★ 虫よけスプレーを活用する
- ★ 肌の露出を避ける服装を
- ★ 屋内では蚊取り剤も有効

